

## 第7回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

### 議事要録

日 時	平成 21 年 1 月 22 日（木）18：30～21：55
場 所	吉祥寺北コミュニティセンター 地下会議室
出 席	寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橘弘之委員、佐々木保英委員、村井寿夫委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）、傍聴 11 名

#### 1. コミセン勉強会・市報特別号の報告

副委員長：コミセン勉強会、広報特集号の反響について事務局からご説明があれば。

事務局：コミセン勉強会の開催状況。こちらの吉祥寺北コミセンで1月15日に開催し、前回西久保より多く22名の参加があった。盛んに意見交換が行われた。建て替えではなくリフォームが出来ないかというご質問があり、委員会でも議論されているところで、設備の入替えが難しいという話、次回の建て替えにおいては新施設のライフサイクルコストを考え、できるだけ長く使える形を検討中である旨の説明があった。脱焼却の可能性についてもご質問があり、コスト面や武蔵野市で現実的に可能かどうかをまず考えねばならない、モデルケース的に一部で行うであるとか、これまでに市内で行われた試みである桜堤の生ごみ処理であるとかの研究を実証していくことが必要であろうと、そして脱焼却を行うにしても実験段階の新技術を除けば安全・安定的に全てのごみの種類を処理できる方法はなく、いろいろな方法を組み合わせた場合にも焼却処理は必要になるのではないかという話があった。広域処理の可能性についても話があり、収集業務の効率性から考えると連携する対象としては周辺市に限られる。現状として周辺で組める相手を探すことは難しい。他市では市境界に工業地域や山、川があり施設が設けられているが、市内にはそういった場所がなく、難しいのではという話が出た。生ごみの分別資源化への取組については、厳密な分別が求められ、食べ残しのごみは塩分が多く堆肥等に向かない。武蔵野市は移動人口が多く若い単身者層も多いことから、厳密な分別を行い全市的に良質な生ごみを受けるのは難しいという話もあった。市報特集号にもいくつかの意見をいただいている。FAX、はがきで意見が提出されており、他にもこれをきっかけに見学に来られた方がいる。問い合わせいただいた内容をペーパーでまとめている。

副委員長：ごみの問題はいろいろなレベルの問題やいろいろな角度からの見方があり一つ一つ整理しておくで後で生きてくる。勉強会に参加された委員でお感じに

なったことがあるか。

委員 : 第1回より議論が深まりより具体的な話が出ていた。一部質問の中で数値的にはっきり回答できなかった点があったため、こういったことをはっきりしておくべき。

委員 : 委員会でどういう検討をしているか分かってもらっていない。意見をいただいた内容も検討していることを、報告する方法を工夫していかねば。

副委員長 : なかなか伝えにくいことは事実であり、少しずつでもやりながら分かっていただけでもって行くことは非常に大切なことだと思う。

委員 : クリーンセンターを造った当時のいきさつは皆さんご存知かと思うが、なぜあんなに頑丈に造ったか、外から見ても壊れていないのではという意見が出る。また同じような頑丈なものを造ったら、廃材がたくさん出る。であれば100年持つようなものを造ってはという意見があったが、街中に造るのに安全安心なものをという要望を受けて造ったため、爆発があったときにも影響なかった。次の施設でどこまで必要か音がでるものはがちり、そうでないものはそこまでなくていいといった検討していることを説明した。

副委員長 : ライフサイクルコストを考えた時に本当にどこまで必要か。わかっていたきにくいところであるが、たくさんの人にわかっていたことが本当に大切。出てきている意見は全て大事なことなので生かしていきたい。

## 2. 北清掃工場視察の報告

副委員長 : 北清掃工場の視察について何かあるか。

委員 : 600トン規模で比べ物にならないくらい大きな施設であったが、武蔵野よりも近くに住居があり驚いた。建設以降に移り住んだ方が近くまで迫っている。その割に植栽はまばらで、コンクリート打ち放しの建物自体が外からはっきり見え、工場というのがはっきり分かるデザインであった。

副委員長 : 23区の施設は一部事務組合で、大きな枠組みでやっているなので技術導入が早く出来る。単独市であると場所の問題から始めなければならず前段で検討しなければならぬことが非常に多くなる。23区の場合は一体で適当な場所があればどんどん造っていけるため、技術的な検討にすぐ入れる。先進的な施設に見えたが10年経っている。焼却の技術がどうということではなく、10年前でも余熱利用であるとか発電であるとかいろいろやっている。今の多摩のシステムでやっているのは前提にかなり時間がかかり大切なところにかかる時間が限られてしまう不幸がある。だから今すぐどう変えるということは出来ないが、区部の施設の先進的なところを参考に。武蔵野よりもはるかに住宅が近接しておりスーパーが隣接しているなどまさに都市の中にある。プラスもマイナスもあるかもしれないが、最新の事例がどうなっているか、いい

事例を集めて欲しい。

委員 : 建設時に住民と話し合いをするのかと聞いたがしないといわれた。建設時は住宅が近接していなかったかもしれないが住民参加は全く無く、よくそれでやれるものだと驚いた。施設の代替が利くため基本的なあり方が違うのではないかと感じた。

委員 : なぜあそこで反対が起きないか、武蔵野の煙突は 59m、北工場は 120m。出た煙は薄められて影響が出てこない。煙に対する恐怖心が感じられないのでは。音や排ガスなど影響が出ないようにすれば、住民とうまくやっていけるということでは。

副委員長 : いい例を見ながら納得していくことが必要。

委員 : 今現在、何も住民は何も関わっていないのか。

委員 : 運営協議会がある。

副委員長 : 影響のあるようなところにエアカーテン等配慮はしている。都の場合は交通条件と空き地があればどんどん造っていく発想。そのあたりが技術的な蓄積があるところ。

委員 : 運営協議会も形式的にやっているように感じた。

委員 : 後から住民が越してきたというのがあるのでは。

委員 : 新しいといっても 10 年経っている。武蔵野の新施設は発電設備が付くと思うが、そのへんの設備のボリュームがどの程度であるといった印象や、これが設置されることで振動等の影響はないのか。

副委員長 : 立体的な構造になっていて地下部にかなり掘り下げている。安定的な印象でほとんど障害がでていようには感じない。武蔵野とは 3 倍程度施設の規模が違うが。

事務局 : 1 万 6 千平米でほぼ武蔵野と変わらないがその中で建物を一杯につくっている。かなり地下を利用して音のするようなものを地下においている。そのあたりの印象がかなり違うと感じた。

### 3 . これまでのまとめ

事務局より「これまでのまとめ . 建て替えの必要性」の資料説明。

事務局 : 「 . 建て替えの必要性」については前回説明の内容から大きく変えていない。必要な内容はデータのなものを補完していく必要がある。

委員 : この内容は委員としては小委員会等で納得したものであるが、説明会等での意見を見ていると建て替えでなくても出来るのではというのが根強いし、一般的な常識からすると出てくる。地域によっては今のものを騙し騙し使われては困るということもあるだろうし、施設を無理やり今の建屋に押し込めた

らどうなるといった逆の視点で、視点を変えたような考え方を補足的に出すべき。

副委員長 : 市民に対して論理的にわかりやすく説明していく必要がある。

委員 : 勉強会でいろいろな話が出てくる。ところがまとめは建替えありきで始まってしまう。この説明のしかたが非常に重要なところ。いつも聴きに来ている方は分かるが、初めて来た人に分からなければ、「前に話をしている」では済まない。

委員 : 小委員会でやっているが、一番苦労するのはここ。17年に精密機能検査をやっており、別冊でこの資料をつけては。外見はきれいだが設備は老朽化している。お金をかけたくないとか業者にだまされているという人もいるが、そういう人たちにも分かるように。

委員 : 両小委員会に出ているが、一般の人に分かりやすい説明をするというのは専門的な話を明快に説明せねばならず、なかなか難しい話もある。ボイラー水管にピンホールが発生し絆創膏で持たせているというようなことは爆発の不安をあおるため書きにくいですが、そういうことを匂わせては。建設当時とはごみが変わり、厨芥が減りプラスチックが増え乾いたごみを燃やすので、技術的に高度な運転をせざるを得ない状況。場合によって燃やす量を調整しなければならず、これ以上無理は出来ない。蒸気が余分に出るので復水器を増設するなど、あっちこっち貼り付けながら使ってきた施設であり、限界という感じはする。それを外から見ている人に上手く説明しないとほとんど分からない。

委員 : 更新は分かったとしても、どの部分で更新が必要なのか。それぞれの場所で納得のレベルが違う気がする。

委員 : 今後は窒素酸化物を下げる必要があるが、北工場ではアンモニア噴霧を付けている。そういう装置を追加していかねばならないため、今の施設で入りきらないということは、施設を見ているから分かる。電気集じん器をバグフィルタに変えるときにも、ジグソーパズルのようにして無理にはめ込んでいくのを現場で見ているからわかる。そうでない、見ていない人との差をどうやって埋めるか。あまり不安をあおるようなことも出来ないのであろうが。

副委員長 : 劣化や老朽化というだけでなく、コストパフォーマンスが悪くなっているなど、見て分かる方法があるのでは。委員会としては一つの前提として了承されたと考えていいのでは。

委員 : 以前の検討の段階では物理的に図面上で、断面図等示していた。困難であるという文章よりも図示等で見えてわかるように。安全を最優先にしたためにリフォームが利かない。爆発事故が起きても建物は傷まず、住民としては助かった。あれだけ軽い損傷ですんだということはそういう意味では正しかった。

事務局 : 前回資料しか入れておらずそれ以前の検討資料まで入れていない。出来る限り客観的に見てわかりやすいようにしたい。23区では建物がもったいないということで一時的に入替えをやっていたが制約が増えることで手間がかかり必ずしもいいもの出来ないというレポートがあった。そのあたりも紹介しつつ、ここは一つの大きな柱になるので再整理しお諮りしていきたい。

事務局より「これまでのまとめ . 施設の処理能力」の資料説明。

事務局 : 昨年6月の基本構想を確認いただいた。数値根拠としては一般廃棄物(ごみ)処理基本計画からきている。他の自治体との共同処理については、工場としての合理性はあるが、用地の確保、収集運搬距離の増加、近隣市の状況等を考えると現時点で現実的な選択肢とはいえない。災害ごみについても規模に見込むことを検討する必要がある。また、災害時の仮置場について防災とごみの啓発を絡め公園での仮置きといったことも出来るのではという意見をいただいているが、衛生面で法的に問題がないかクリアする必要がある。

副委員長 : 広域については、ある意味で政治的な話もあるが、現時点では助けにならないということか。

委員 : 政治的な話になるのであろうが区部というのもある。練馬区や杉並区とは組めないか。ただし、広域の話は持ち出したところが責任を取る必要が出てくるという話もある。将来的にごみが減ったら発電の効率等を考えると他所から受けるということはあるかもしれない。練馬のごみを引き受け、代わりに粗大ごみを受けてもらうようなことはあるかもしれない。しかしこれはかなり裏技的な話で現実的にはこれ以上掘り下げても仕方がないという印象がある。

委員 : 120トン確保できなくなったら他所から集めてくるというのは住民としては反対。むしろごみが減れば炉を休ませてメンテナンスがしやすくなるという風に考えるべき。本末転倒になってはならず、発電するためにごみを出すのではない。

副委員長 : 広域連携で何かをやるというのはこういうハード的な話もあるがいくつかの市で集まって研究するというソフトな話も含んでいただきたい気がする。

委員 : 現施設は3炉で1炉休ませている。それが2炉になるとメンテナンスがどうなるか心配。たとえば1炉壊れて処理が出来るのかということを考えておかねばならない。多摩地区の中での広域は距離的なものを考えると非現実的。それであれば、区部との連携を考えるべき。

事務局 : 発電は付随するものでありそれが目的ではない。ごみ発電は循環型社会を形成していく中で重要な位置づけではあるが、ごみが減れば運転計画で炉数の調整等を行っていくことになる。2炉で心配という話は技術論で検討する必

要がある。たとえば3炉にして40トンとすることも考えられる。炉規模を変えて80と40であるとか。今後の検討課題になるが、2炉の場合には一般的にはごみピットの容量で調整するようなことになる。

委員 : 災害ごみのことがあったが、15ページの防災計画の仮置場が軟式野球場になっている。各地区の公園に出すことで啓発を行う際の課題として衛生上の問題があるとの説明があったが、公園に出すのと野球場に出すのでは衛生上変わらない。野球場で仮置きすることに問題はないのか。

事務局 : 衛生上問題があるかどうかまだわからないため調査検討を要する。地域防災計画については防災課にも確認する。

委員 : 計画に書かれていると一人歩きしてしまう。

委員 : 地域防災計画には既に書かれている。2炉の場合に炉をストップする時は家でごみをストックさせるであるとかソフトとの合わせ方からいろいろな方法がある。公園に置くにしても冬であればごみ収集をなくしても出来るでは。そういう意識付けの部分でソフト的なことが出来れば。

事務局より「これまでのまとめ . 処理システムの方向性」の資料説明

事務局 : 焼却+エコセメントを基本とする。全市的に採用しうる処理方式、処理システムが確立されていないバイオマス資源の活用方策を模索するため、ごみ減量協議会の検討を踏まえパイロット事業を展開するとしている。資源物については現状委託処理しており自区内処理、安定性・継続性、運搬効率等の課題があるが、かなり大規模な施設となるため併設は難しいので、一部品目のストック等可能な方法を検討していくことが今後の課題となっている。

委員 : 焼却+エコセメントの継続について、最終処分場がないのでいたしかたないが、桜川村での失敗の経験もあり、エコセメントの利用について追跡調査をしっかりと継続して責任を持ってやっていく必要がある。自分たちの出すごみであり他所に迷惑をかけないように監視していく必要があるが、現段階ではこれでいくよりしかたない。ただし将来的に何か新たな技術が出てきたときにそれに転換できるスタンスが必要。

委員 : 勉強会でも生ごみの関心は非常に高い。パイロットプランの進め方としてそういう方に加わっていただきやっていくのがいい。会員制で行うなどのやり方があるのでは。地域事情等もあるため、勉強会で意見を出してもらい参考にしてみてもいい。

委員 : クリーン武蔵野を推進する会にも生ごみチームがあり、いろいろやっているが、設備を設けるには金があるので個人では難しい。こういうことをやろうとなれば集まってくる人は集まってくるはず。センターで全市から持ってく

るのは大変であろうが、地域ごとでやれば面白いものが出るのでは。この機会に進めてくれれば、賛同する人は多いと思う。

委員 : 生ごみを昔は庭に埋めてということをやっていたこともあり、主婦の方は出来そうだと感じる。しかし生ごみをバイオ化するには塩分等入らないように手間隙のかかるきめ細かい分別をし、収集も夏場はすぐ腐蝕するためそれに対応した、現状とは異なる方法をとらねばならない。そういったことが確立され全市民的にうまくいく方法を、ごみ減量協議会等でもう少しつめていたかねば難しいと感じる。

委員 : 堆肥化したものをいかに使うかが一番重要で、武蔵野で肥料化しているものが、実際の農家では混入物や有害なものがあり全て使いきれていないという状況がある。やるからにはそういったことを吟味してやっていかねばならない。

委員 : 生ごみは堆肥化ばかりでなく、メタン化、炭化、飼料化等ある。実証するのであればそういう研究も含めてやれる方向を考えた方がいい。栃木県の野木町ではRDF（炭化）と堆肥化で一切燃やしていない。非常に少人数で、引越してくると担当職員が生ごみの出し方を指導しにいく。農家もたくさんある。RDFは工場と提携して燃料として使っている。作りっ放しではなく消費することを考えねばなかなか難しい。今やっている生ごみ処理にも電気代などコストがかかっている。ごみ減量との見合いで収集車の走行距離が減るなどを含め、効果を検証してみる必要がある。

委員 : 東村山方式がよく分からないので、成功しているのかどうなのかももう一度説明して欲しい。

委員長 : 集団回収で生ごみをやっている。3,4軒集まって場所と時間を指定して市が取りに来る。集めた生ごみは肥料にしている。

事務局 : 当市ではベランダに置く電気式生ごみ処理機を700台ほど設置されている。アンケートしたところ4割程度の人を使用している。最近では補助をしたと思われる処理機が粗大ごみとして出てきている。1日使うと22円電気代がかかる。360グラムの二酸化炭素に相当する。本当に環境のことを考えた時にどっちがいいのか、市で検討している。出来た生成物はごみに出しているという回答も半数近くに上った。庭で自然発酵するようなものはいいが電気を使うものは再考したい。

委員 : 半年ほどテスト的に使ったが、当時で1ヶ月千円ほど電気代がかかったため辞めた。コンポスターは庭や畑があるところはいいが、無い場合は難しい。

委員 : 東村山の処理工場を見学に行ったが、外注でやっている。工場地帯のはずれにあり、工場内はかなりのにおいがする。あの状況を市内のどこで出来るかという現状では難しい。

- 副委員長 : いろいろな処理システムがあるがこのあたりをどこまで我々が自信を持って提案出来るか。
- 委員 : 生ごみ処理そのものが自治体のごみ処理で上手くいっているというのを聞いたことがない。今後も調査が必要であると思う。自然な状態で自然に還すやり方がベストではないか。市内の個人に使ってもらい、生ごみ処理を体験してもらおうのも、ごみ処理の実態をわかってもらうのに有効だと思う。そのためのパイロット事業を提言している。
- 委員長 : 生ごみの回収について、山梨のスーパーで回収している例が一番いいやり方だと思う。買い物する時に持っていき、バイトの学生が見ていて変なものが入ったら取り除く。量に応じてポイントを発行し、買い物出来る。集めた後のことが無ければ上手くいかない。生ごみの飼料化施設を見に行っただが、大きな施設を造ったが量が集まっていない。自治体が事業系ごみを安く処理してしまうためそこに出してしまう。給食残渣を持っていくような、そういうところとのタイアップなど可能性はあるから調べるだけ調べてみるといい。
- 委員 : 堆肥よりも人間が食べたものだからエサにするのは理にかなっていいかもしれない。事例をもっと知る必要がある。
- 事務局 : 基本的には焼却処理 + エコセメントを一つの柱として、生ごみについてはいろいろご意見をいただいており、行政内部でのすり合わせをしていく中で委員会として意見を出してもらい整理していただければ。
- 委員 : 昔は戸建てで庭があり、生ごみは土に還していた。武蔵野は戸建てが結構あるのだから庭に捨てたお宅に援助金を出すなどのことを考えてみては。回収するところからはしっかりお金を取る。自分の庭に埋めるのであればビニールなど埋めない。においの問題であるとか衛生上の問題があるので、その辺をどうして行くのか。
- 委員 : クリーンむさしのを推進する会ではエコカレンダーをつけてもらい、ごみの量を計っている。計ることによりダイエットのように減ってくる。減るか減らないかに関わらず、計ってもらったらインセンティブをつけている。
- 委員長 : 公園の一角を借りて地域の人が生ごみを集め、ジャガイモを作っている。どこかに持っていくのではなく自分たちで使うことを考えれば意識は変わる。上手くいかない例もたくさんあるため、駄目なら撤退できるような、良い意味で、半分遊びのような形を考えてはどうか。
- 委員 : 現状の生ごみ処理で年間 250 トンやっている。既に実施しているものにプラスして個人に広めていこうということ。それをすることにより焼却に入る量が減る。公共施設で、既に実施しているものが多いがその反応、評判はどうかデータを調査して評価し、次の話がしたい。自分でやれば、においの問題等、実態が良く分かる筈で、そのためにもパイロット事業を広げていき



たい。武蔵野は繁華街が多い。土日早朝に行くとカラスが生ごみを穿り返している。この対象を含めて、新しいアイデアのヒントにならないか、実施してみてもどうか。

委員 : 商店街の取り組みについて寄本先生の学校の方がご存知かと思う。そういうところで結び付けられるといい。また収集している職員が事情をわかっているため、タイアップしてやる仕組みを考えるといい。

事務局 : 市内4千の中小の事業所の生ごみだけでなく紙類の分別等調査を始めている。21年度にはおそらく報告が出る。

副委員長 : 量はまだ出切っていない。非焼却の話をどういうベクトルを持って進めるのか。そこがなければ施設の話はあまり意味を持たない。武蔵野でどう展開出来るかという話にもって行きたい。

委員長 : 長野県の白田町(現佐久市)の生ごみの取り組みで、週2回生ごみでなく肥料収集という形でやっている。釜を持って行って家庭菜園の肥料をもらえる。工場に行っても匂いがしないが脱臭剤等使っていない。武蔵野なりの無理をしない、遊びのある方法でいい。

副委員長 : クリーンセンターを契機にいろいろな試みをやってみられればいい。

委員 : 武蔵野で生ごみが年間何トンくらいあるのか。どのくらい利用できるのか。

事務局 : 次回まとめて紹介する。

事務局より「これまでのまとめ . 施設のあり方、 . ごみ減量対策と新施設」の資料説明。

事務局 : まだメニュー出しのレベル。委員会でもどこまで煮詰められるか。

委員 : 環境だけでは漠然としすぎて、議論した結果があまり入っていないように感じる。オバマ大統領の就任演説を聴いていても環境ニューディールの話など出たが、温暖化防止が最終目標。処理量を減らし少ないエネルギーでいかに燃やすかになる。処理のエネルギーを削減するというのをに入れて欲しい。施設のあり方とあるが、収集から処理処分まで、施設だけでなく、上流側から下流側まで含めて、考える必要がある。上流側で見た場合、化石燃料の使用を削減するのが将来像なので、燃やすのはごみだが収集車は化石燃料を使わないものにするなどテーマとして入れて欲しい。

委員 : 処理する側にまわって適正な処理をと考えているが、容器包装の仕組みなど流通と事業者のあり方。後始末だけではなく入り口を締めなければ。物を作る側の何かを入れて欲しい。物がなければごみにならない。

副委員長 : 考えるべき課題がいろいろでてきたので、もう少し見えやすく分かりやすく整理していく必要がある。次の展開をどう図っていくか。もちろんリファイ

ン（削減）具体化は必要だが、どうもって行くか。そろそろ場所の問題に戻ることも必要になってくるように思われる。

事務局 : 本日も多くの意見をいただいたので、これまでのまとめをもう一度整理する必要がある。今回の委員会の検討事項では「施設のあり方」、「用地」、「まちづくり」という順番で検討を行っているが、まだ「施設のあり方」がまとまってきたかは分からない。作業部会をさせていただき、まとめの整理と進め方を協議させていただきたい。

副委員長 : ここで議論したことは、課題の洗い出しとそれに対する基本的な考え方。武蔵野で出来るかどうかとか量的なものははっきりしないが、そういうものが割合出てきた。それを市民の方にどうやって伝えられるか、啓蒙というか市民の方と問題を共有出来るか。ここからもう一つ進むためには建て替えるかしないかということと、場所をどうするかを具体的にしていくことが大切。建て替えることについては説明の不足はあれども決着している。すると次は場所をどこにするかがここから具体的な検討をしていくのに必要。ここで一度レポートをまとめて第二期に移るのがいいのでは。場所の問題はそこからいい形でスタートできないか。

事務局 : 不完全なまま、場所ありきで議論が進むのもボタンの掛け違いになることが考えられる。ここまでの議論をまとめることに時間をかけることも必要かと思う。時間的制約もあるが目標を作ってやれば。

副委員長 : 場所の問題というのは何かと考えていくと、迷惑施設ではなく積極的なプラスの施設、もう一つは焼却だけに頼るのではなく市民の手でやるということ。そのあたりをはっきりさせて場所の検討に移るか、今の流れで進めるのがいいのか。

委員 : 市民全体一人ひとりの問題として考えていこうというのがこの委員会のスタートでいろいろな場所で委員会や勉強会をやっているが、クリーンセンター周辺の考え方も聞いて欲しい。委員会と緑町団地自治会との共催で勉強会をしてほしい。どこになるにしてもこういうのは困るであるとか、どういう思いがあるかを伝えたい。

副委員長 : 当事者というと失礼だが、今の周辺の方とは徹底的に話し合うべき。それをやりながら議論を深めていくといい。その前に我々はこんな施設を造りたいというのを提案していくのか。

委員長 : アメリカの民主主義というのは選択の義務がある。どうするか聞かれてははっきり答えられなければならない。選択の可能性がいくつかありそれを並べることはコンサルがまとめてくれる。

事務局 : いろいろ議論が出たので整理して、次回どうするか提示したい。

委員 : ある程度の規模まで決まらなければ場所が決まらない。地域の人に還元でき

るこういうものが造りたいとなれば、それなりの場所が必要になる。この場所ならこういうことが出来るというのもある。

副委員長 : 具体的な場所が見えなければというのもある。場所が決まればリアリティーも出る。用地は限られているということはある。

委員 : 任期が一応3月までということになっていた。延びる前提になっている気がするが、見込みを示して欲しい。

事務局 : これまで経験している市民参加方式の流れは、はっきり期日を決めていつまでというわけにもなかなか行かない。一つの目処として3月末を考えているが、議論の中で動いていくものと捉えている。

委員 : 建設の全体スケジュールはどういう見込みでおられるのか。

事務局 : 10年の延命化をしており、それを考えると平成30年までは稼働可能であろうということ。

委員 : スケジュールには用地選定や住民との協議は入っているのか。

事務局 : 計画・設計、アセス、建設等で8年程度かかることを想定するとまだ2年も3年も余裕があるというわけではなく、今回の委員会で用地を含めて検討いただきたいというところ。

副委員長 : 今回の話で用地の議論の前に出すべき施設のコンセプトまではできると考えている。

委員長 : なぜこれを選んだかという説明できなければならないということは理解しなければならない。そのために今いろいろやっている。総合的な意見のすり合わせるのが良い訳ではない。全部書かねばということではなく聞かれて答えられなければ、知らなければ説明できない。

副委員長 : まとまりなく話をしてきたがイメージは出てきた。そうして初めて用地の話が出来る。

委員 : 現施設は委員会の用地の決定から説得に半年かかっている。

事務局 : 次回は2月10日スイングホールにて。2月2日に作業部会を行いたい。施設部会というわけではなく参加できる方皆さんでお願いしたい。

了 (午後9時55分)